

市長のタウンミーティング 上中島地区

(敬称略)

	開催日時 令和元年11月6日(水) 19:30～21:20	
	会場 上中島公民館	
	参加人数 39名	
	開会挨拶 上中島地域振興会長	河口 利春
	書記	赤坂 喜英

市政への提案、意見

番号	地区名	項目	内容
1	上中島	教育環境	小学校統合など、先行投資で他の自治体より良いかじ取りをしているとあとからいわれても市民へのPRが足りないと思う。魚津の素晴らしさを、計画段階から先にアピールして、こんなにうまくいったという方法をとってほしい。
2	上中島	産科構想	産科構想については、来年度以降、財政の健全化等うまくいけば、市民アンケート等も取りつつ復活のビジョンも示してほしいところであるが、そのような考えはないという見方でよいのか
3	上中島	企業誘致	教育環境の充実については評価されてよい。ここで学んだ子供たちが、将来Uターンで帰ってくる。働き先を誘致してあげなければならないので力を入れて説明していただきたい。
4	上中島	行財政改革	職員数の削減について、削減も大事であるが、どうやって育成していくのか。常に新しい職員も採用していかなければ、職員の年齢構成に波ができてしまうと将来運営が厳しくなると思う。
5	上中島	企業誘致	企業誘致することも大事だが、今ある企業も離さないようなことも必要。行ってしまったでは取り返しがつかないので、そういったことにも目配せが必要である。
6	上中島	観光振興	海岸通りでの観光客を取り入れるためにも、自転車等を用意してあげるなどできないか。もっとほかの地域からきていただけるように、観光にもPRして施設も利用していただきたい。
7	上中島	防災	地域振興会で、避難の手順書等を作成すべきであろうが、そのような経験がないこともあって遅れている。それぞれ地形的な特徴も異なると思うが、そういうものを作っている地区があるか？またそのような手順書がなければ実際対応できないと思うが、市はどのように考えているのか。
8	上中島	防災	台風の時、もくもくホールの避難所開設について連絡があった。対象となる地域としては出地区と湯上地区もあったが、出地区からもくもくホールまで遠いし、移動する時間に何かあっても困る。そういった点もこれから話し合わないといけないと思った。また、避難所が開設されたとしても、どう住民に知らせればよいかということがあった。要支援者の対策の会合があったが、そういった会合に合わせて周知していただかなければ、案内する人がどういった連絡をすればいいかわからないのでご検討いただければと思う。
9	上中島	防災	防災無線が、何を言っているかわからない時がある。車で回っているときなどは公民館などで止まって放送してほしい。わかりやすいように放送を流していただけると助かる。

その他に2件のご意見あり

令和元年度 市長のタウンミーティング実施報告書

地区名	上中島地区	日時	11月6日(水) 19時30分より 21時20分まで	参加者数	39名
会場名	上中島公民館	司会	企画政策課 上田 哲也	書記	環境安全課 赤坂 喜英
市側の出席者	市長 村椿 晃 副市長 四十万 隆一 教育長 畠山 敏一 各部長ほか	地区からの 主な参加者	地域振興会長、各種団体関係者ほか		

1. あいさつ

上中島地域振興会 会長 河口 利春

2. 市長談話

市長 村椿 晃

- ① 「行財政改革の推進」について
 - 人口推移・推計・市の目標について
 - 財政状況について
 - 財政健全化計画について
 - ・公共施設の再編及び使用料の見直しについて
 - ・職員数の削減について
 - 産科構想の中止について

- ② 「魚津市総合計画の策定」について
 - 特定政策分野における取組について
 - ・子育て支援
 - ・教育環境の充実
 - ・観光振興
 - ・産業振興
 - ・魅力的なまちづくり
 - 人口減少・高齢社会対策について
 - ・移住・定住の促進
 - ・健康づくりの推進
 - ・誰もが暮らしやすいまちづくりの推進
 - 市民意識調査の結果について
 - 地域づくりの経過と各地区における事業について
 - 次期総合計画の策定について

3. 意見交換（地区からの提言・提案等について）

◆「行財政改革の推進」について

○小学校統合について

小学校統合に44億円かかっているとのことですが、終わってしまってから、先行投資で他の地区（自治体）より良いかじ取りをしているといわれても、市民へのPRが足りないと思う。

九州で、子どもたちの教育を無償化するというようなことで移住者も増えていると聞いている。同じようにはならないだろうが、そのような説明・やり方をしていけばよいと思いました。村椿市長が魚津の素晴らしさを、計画段階から先にアピールして、こんなにうまくいったという方法をとってほしい。

（村椿市長）

大分県豊後高田市の21世紀塾の取組のことだと思います。10年以上前に地域全体で子どもを教えましょうという考えで無料の塾を開設しました。その講師を地域のみなさんがボランティアで行っている取組です。それを聞きつけた方々が何百人も移住してきたと話であったと思います。私もその取組は素晴らしいと思っています。そのような取組を市民の皆さんと行っていきたくと思っています。アピールの仕方については今後の参考にしていきたいと思っています。

○産科構想について

中止となった産科構想の話については、来年度以降、財政の健全化等うまくいけば、市民アンケート等も取りつつ、復活のビジョンも示してほしいところであるが、そのような考えはないという見方でよいのか。

軽々しくお答えできないが、夢をあきらめたわけではない。具体的な事は現段階で何も言えないが、将来またチャレンジしたいと思っている。

○働き先の誘致について

教育環境の充実については、米百俵の精神で大事なことで評価されてよい。

ここで学んだ優秀な子供たちが、将来Uターンで帰ってくる。そうすると働き先を誘致してあげなければならないので、その辺に力を入れて説明していただきたい

（村椿市長）

若者の雇用については、パナソニック以来企業誘致がない。また、企業が市外に出ていくということもあり、若い人が働く場の誘致や産業の育成をしてほしい意見が強く出ています。

魚津市では現在適地の調査も行っており、企業からの拡張の要望等の声に応えられるように取り組んでいる。

また、市内の企業でもいくつか新しい動きがあります。例えば、能開大の向かいに三菱日立ツールが来年の秋くらいに再操業します。最初は30人くらいからスタートして、地元の採用もおこない、千葉と滋賀の両方の工場から魚津に戻ってきてスタートする。毎年10人くらい増やしていったら、当面の計画では60名くらいまでもっていきます。あと、桑山も増設していきます。

そういった地場の企業の取り組みもあります。あと我々は、その他にも若い人が働ける事業所を誘致するということをしつかりやろうと思っています。

○職員数の削減について

職員数の削減について、削減も大事であるが、どうやって育成していくのか。常に新しい職員も採用していかなければ、職員の年齢構成に波ができてしまうと将来運営が厳しくなると思う。

(村椿市長)

今計画は5年間で、保育士は民営化などで現場・現業の職員を主に削減されていくが、一般職員も退職する数より少しだけ採用を減らして、5年間で10人くらい削減する計画になっています。大事なのは経験です。魚津市でも国の官公庁に派遣していろんな経験をしてもらっています。

○企業の魚津市撤退の可能性について

魚津にも滑川にも事業所がある企業が、魚津を撤退して滑川に出ていってしまう可能性もある。誘致することも大事だが、今ある企業も離さないようなことも必要。行ってしまったでは取り返しがつかないので、そういったことにも目配せが必要と思う。

(村椿市長)

そのとおりだと思います。ここ数年でも、企業とコミュニケーションをとって、そうならないように課題を聞かせてもらう取組も行っています。

○海岸沿いの観光について

埋没林や海の駅のあたりの海岸をとおると、観光客の方がキャリーバックをひいて歩いているのをよく見る。観光客を取り入れるためにも、自転車等を用意してあげるなどできないか。最近は蜃気楼もよく見えるので、もっとほかの地域からきていただけるように、観光にもPRして、施設も利用していただければと思います。

(村椿市長)

おっしゃるとおりのことを私も考えております。

この間、佐渡島で開催された日本風景街道の交流会議に行ってきました。

例えば、魚津市の場合は道路沿いには、蜃気楼海岸や米倉、海の駅や埋没林博物館や水族館などの観光資源があります。そのような道路沿いの観光資源をしっかりと活かす取組を全国では行っています。来年、魚津市で北信越地区の風景街道の会合を行います。ボランティアの団体や道路をきれいにしている地域の方々などが、観光客のおもてなしのようなことを行い、少し実費いただくなど、道を活かした観光が、風景街道の取組であります。今もおこなっていますが、もう少し自転車の配置台数を多くしたりして、観光客がもっと利用できるようにするなどの取組をぜひやっていきたいと思っています。

◆「魚津市総合計画の策定」について

○避難の手順書等について

魚津市でも洪水ハザードマップが配布され、各地区に配布もした。上中島は、早月川・角川に囲まれ、特に角川地域では湯上・舛田・出・岩高の地区は、非常に低い。地域振興会で、避難の手順書等を作成すべきであろうが、そのような経験がないこともあって遅れている。それぞれ地形的な特徴も異なると思うが、そういうものを作っている地区があるか？またそのような手順書がなければ実際対応できないと思うが、市はどのように考えているのか。

(市長)

今回お配りしたハザードマップは 1000 年に一度を想定したもの、従来のものは 50 年に 1 度を想定したものであり。これの配布をきっかけに地域で防災の取り組みの話し合いのきっかけとなればと考えています。

(企画総務部長)

他地区で取組についての質問ですが、海岸線の地区は 2 分後に最大津波が来る想定ですが、上中島は角川地域で浸水区域が大きいという違いがあります。

タイムラインとって、いつどのような情報を地区の方に出すかあらかじめ決めて、自主防災の皆さんにお知らせしている。それを受けて地区はどのタイミングでどういう行動を起こすべきか、どの避難所に避難すべきかなどを、今後、一緒に協議・相談させていただきたいと考えています。

○もくもくホールの避難所開設や連絡体制について

この前の台風の時、もくもくホールの避難所開設について連絡があった。対象となる地域としては出地区と湯上地区もあったが、出地区からもくもくホールまで遠いし、移動する時間に何かあっても困る。そういった点もこれから話し合わないといけないと思いました。

また、私が困ったのは、連絡体制をどうすればいいかということです。

避難所が開設されたとしても、どう住民に知らせればよいかということがありました。今月 15 日に要支援者の対策の会合があったが、そういった会合に合わせて周知していただかなければ、案内する人がどういった連絡をすればいいかわからないので、ご検討いただければと思う。

(企画総務部長)

10 月 12 日の台風 19 号については、市の基準では、地滑り・土砂崩れ・河川の水位もそこまではいかないだろうという見込みで待機していました。住民の皆さんから、暴風が心配で一人では不安という電話もあったことから、自主避難所を開設し、心配な人は避難してくださいと案内したところ、経田で 1 名、本江で 2 名の方が自主的に避難してこられました。各地区に 1 か所という形で自主避難所を開設し、上中島地区では、今回はもくもくホールを避難所としましたが、河川氾濫の恐れがある場合は、どこに避難所を設置すべきか、また、連絡体制のあり方などについて、今後にむけて協議していきたいと思っております。

○防災無線について

防災無線の話でお願いですが、何を言っているかわからない時がある。車で回っているときなど、公民館などで止まって放送してほしい。わかりやすいように放送を流していただけると助かる。

(企画総務部長)

防災関係の放送が聞こえないという苦情は、各地区からいただいております。

行政防災無線については、災害関係系の情報、例えば避難勧告・避難指示、熊出没情報等流れますが、風向きや雨などで、どうしても聞こえないこともあります。何か防災無線で放送しているなどと思っていただくことが大事であります。その情報は、おそらくNHKやCATV等でも同じような情報が流れます。また、防災無線で何を言っていたかをしりたい場合は、23-1118に電話すると同じ内容が聞けますので、そこで確認していただきたいと思います。

車での放送の場合は、過ぎ去るとき聞こえない場合があります。これは、一旦止まって放送するなど、対策を考えたいと思います。

○働く場の確保について

市民の意識調査を受けましても、魚津市の皆さんは地元で働く場所を確保してほしいというのを行政に要望している。しかしながら、魚津市は山も近く、用地もなかなか狭いということもある。特に上中島は早月川水系であり、いろいろ制約もあって農業用地の売買が規制されております。市だけでは難しいと思いますが、まとまった土地を用意して、企業を誘致できないか？それによって、魚津の基幹産業である駅前繁华街も栄えるということになりますので、ぜひ検討いただけたらと思います。

(村椿市長)

現在、市内で適地調査もやっております。この辺は農振地域ということで、なかなか簡単にはいかないと思いますが、具体的な計画がでてくれば、交渉のしようがあると思います。ぜひそのような展開が図れるように頑張っていきたいと思います。

○通学環境の安全確保について

通学環境の安全確保という面で、今までもPTAの方の市への要望や警察の方にも話をして若干の改善がみられるが、慶野地区から弥源寺地区にあがってくるところはまだ手付かずと考えています。冬になったときの融雪装置のない道路等は、大雪を考えると相当大変なことになる。それでいて、スクールバスは3km圏内などの制限がある。そういうところを改善してほしい。

この時期は、真っ暗な時間に中学生・高校生が自転車で上がってくる。街灯もLED化されているが暗い。しっかりと子供たちが成長しやすい環境づくりをしないと移住ということも考えられないし、市外へ出ていくということになってしまう。その辺をしっかりとやっていただきたい。

(村椿市長)

ご指摘の部分は、学校統合を進める時から意識していて、通学路の方は県のほうも順次整備していきます。一度に整備することは難しいですが、子どもたちの通学の安全はなにごとにも代え難いものであるので、継続的にしっかりと整備していきたいです。